



CAGLIERO 11

カリエロ



182 2024年 2月

サレジオ会宣教ニュース

サレジオ会宣教部門によるサレジオ会共同体・サレジオ・ミッションの友人のための通信



友人の皆さん、

私はマテオ・デルブランコと申します。スペインの宣教促進を担当することになりました。

私はサレジオ会員として、学校、教育・生活指導の仕事を中心に働いてきました；宣教というテーマは、私の日々の生活の中であまり縁のない存在でした。マドリードの宣教事務局の一員となり、今年、スペインの宣教促進担当者となった私は、今、全面的に宣教に取り組んでいます。私自身、力を尽くして宣教に努めたいと思いますが、すでに関わっている皆さんには、引き続き宣教を促進するようお願いいたします。それぞれが置かれた環境で、単調な日々の生活の中で、信仰をより良く生きる手段となるでしょう。

兄弟の抱擁を送ります。

■ スペイン宣教促進担当者
マテオ・
デルブランコ神父, SDB

サレジオ会による先住民族のための働き



先住民族の人々は、自然への大いなる尊敬を表わす生き方を何千年にもわたって営んできました。彼らにとって土地は、創造主からの、またそこに眠る祖先からの贈りものであり、自分たちのアイデンティティーと価値観を保つために結ばれている必要のある、聖なる空間です(ラウダート・シ146)。先住民族の伝統宗教、文化的慣習、世界観は、**超越的な存在を認識している**ことを表しています。中には人間の尊厳を損なわせる慣習や迷信もありますが、多くの慣習、伝統は、他者を思いやることを中心とする社会的価値をととても大切にしています。

歴史の中で、多くの司教、司祭、修道者、信徒が、先住民族の人々の尊厳を守るために、そして彼らがイエス・キリストとその福音を知るようになるために、いのちさえささげてきました。しかし、先住民族に対し不正義が行われてきたこと、時に宗教指導者がそれに反対しないことがあったのも事実です。したがって、「私たちは、先住民族の人々を自分の兄弟姉妹として、同じ父の子らとして見ることでなかった人々の愛の欠如によって行われた**数々の不正・虐待を全面的な誠意をもって認める**必要があります。」(聖ヨハネ・パウロ二世, 1992年10月13日, サント・ドミンゴ)

私たちが先住民族の人々に心を向けるのは、何らかのイデオロギーや圧力団体を支持するからではありません。そうではなく、それは、神にかたどられ、神の似姿に造られているという私たちの根本的なアイデンティティーに根ざす関心なのです。それは、あらゆる民族的なアイデンティティーよりも深いものです。人々が自らの価値観や伝統とイエス・キリストの教えとの間に一致点を見いだせるよう、教会は先住民族の人々をその文化と共に抱擁します。この対話は、先住民族の人々が見事にそうしてきたように、自分たちの環境、文化、伝統を保護する責任を理解し受けとめるよう、私たちに教えてくれます。他方、先住民族の人々は、自分たちの価値観、文化、伝統のうちに、「すべての人を照らす真理の光」(第二バチカン公会議公文書「キリスト教以外の諸宗教に対する教会の態度についての宣言」2)の反映を見いだすよう助けられます。

ドン・ボスコはパタゴニアの先住民族の人々のもとへ宣教師を派遣しました。今日、サレジオ会は、文化資料館を開設し、辞典、文法書などの書籍を著したりすることによって、先住民族のアイデンティティーを積極的に促進、保護しています。先住民族への全人的福音宣教を促進するプログラムを広めています。実に、先住民族の間での私たちの事業は、貧しい人々、疎外された人々のためにサレジオ会が取り組んでいることの表れとして重要なものです。

■ 宣教顧問

アルフレッド・マラヴィジャ神父, SDB

振り返りと分かち合いのために

- 先住民族の人々から私は何を学べるだろうか？
- 先住民族の人々への全人的福音宣教のために、私たちはどのように貢献できるだろうか？



Cagliero 11 (カリエロ11)の全バックナンバー : <http://salesians.jp/library/cariero>

病を患う兄弟会員 – 生けるドン・ボスコ



アントニオ神父様、神父様の共同体の病気の会員はどのような状況にありますか、そしてその会員たちが、役に立たない、望まれていないと感じることがないように、どのように助けていますか？

エル・カンペリヨのサレジオ会の修道院には、引退した会員の家「エル・ミラドル」があります。現在、24時間介護の必要な会員が8人います。そこは、3回のシフトで24時間介護を行う看護師によって運営されています。

共同体のわれわれ6名の現役会員は、エル・ミラドルの病気の兄弟たちと直接関わっています。ヘスは薬のこと、医師の診察、病院への同行を担当しています。フェリックスは毎日、修道院のまわりの散歩に付き添い、訪問客を迎えます。マノロ・ベルヴェルは毎日、ミサをささげ、共に祈ります。私は院長として、共同体のほかの会員たちと共に、病気の兄弟たちを毎日訪問するようにし、会話し、耳を傾け、その必要に心を配るようにしています。自分も活動していると感じることができるよう、何らかの役目を兄弟たちにゆだねています。誰かが誕生日を迎えると、皆で集まって夕食を共にします。クリスマスや復活祭、サレジオ会の大きなお祝いするときにもそうしています。

高齢、病気の会員の、サレジオ会ミッションへの最も大きな貢献は何ですか？

私たちは絶えずそのように認識してきたし、直接の体験から知っていますが、病気の会員たちは全人生を、体も魂もサレジオ会のためにささげ、サレジオ会共同体の一員として生きたそれぞれの場所で、管区におけるサレジオ会の成長に貢献してきました。この会員たちは、大いなる宣教の軌跡をたどってきたのです：召命を目覚めさせ、若者の信仰の成長に同伴し、今もその存在を通して本物の生きたドン・ボスコであり続けています。

年を取ることで、自分の限界、さまざまなことができなくなることを、私たちはどうすれば受け入れられるようになるのでしょうか？

このサレジオ会の家、病を患うサレジオ会員と共に暮らす兄弟たちの小さな共同体の一員であることは、祝福であり、主が私たちにくださるご褒美です。私はこの会員たちと共に暮らす日々の生活から多くのことを学んでいます。それは間違いなく、年を取ることで、病気になり、周りの人に頼るようになることについて教えてくれる、本物の学校なのです。それは日々、兄弟たちが差し出してくれる教訓です。落胆することなく、キリスト者の希望をもって、いつも自分の状況を父なる神にささげながら。



アントニオ・サラゴサ神父, SDB

スペイン、ベニホファル (アリカンテ)

生まれです。私がサレジオ会員の道を歩むようになったのは、同じ町出身で、召命を励ましてくれた故フロレンシオ・セルドラン神父のおかげです。私はここ、エル・カンペリヨ修道院で志願期を過ごしました。

1987年5月30日、私はバレンシアで司祭に叙階されました。学校司牧、ユースセンター、それぞれの活動を企画するグループに入っていました。

また、ADMAのさまざまなグループやサレジアニ・コオペラトリーのデレガートも務めました。現在は、エル・カンペリヨ修道院の院長、そしてサレジアニ・コオペラトリーのデレガートです。

サレジオ会員の平均年齢

地域	会員および修練生	平均年齢
アフリカ-マダガスカル	2,019	37.9
南米サウスコーン	1,118	55.2
東アジア-オセアニア	1,422	49.2
南アジア	2,997	44.2
中央・北ヨーロッパ	1,948	58.8
インターアメリカ	1,451	56.6
地中海	2,362	67.2
ローマ本部-UPS	183	59.7
合計	13,500	53.6

出典：Agenzia Fides 2023年12月19日現在



2月 サレジオ 宣教の 祈りの意向

病気の終末期の人々のために

スペインの高齢の、
あるいは重い病気のサレジオ会員のために。

病気の終末期の人々とその家族のために祈りましょう。医療の面でも、また人としても、必要な世話と同伴をいつも受けることができますように。 | 教皇フランシスコの祈りの意向 |

スペインの
ために

